

## 2006年3月期 中間決算説明会

2005年11月21日  
日本板硝子株式会社

(説明会での発言内容をここに記載してまいります。)

## 今決算のポイント

まず今回の中間決算のポイントを簡単にご説明いたします。

● 連結損益計算書

(単位:10億円)	(参考)			
	2004年 9月期	2005年 9月期	前期比	2005年 3月期
売上高	129.7	127.2	98.1%	265.0
営業利益	5.3	3.9	72.8%	12.0
(営業利益率)	4.1%	3.0%	-	4.5%
営業外損益	0.5	2.1	414.1%	1.2
経常利益	5.8	6.0	102.7%	13.3
(経常利益率)	4.5%	4.7%	-	5.0%
特別損益	0.6	-0.4	-69.5%	-1.8
税引前当期利益	6.4	5.6	87.3%	11.4
税引後当期利益	3.9	3.9	99.2%	7.6
(当期利益率)	3.0%	3.1%	-	2.9%
1株あたり当期利益	8.8円	8.8円	-	17.1円

インソライト工業の影響(21億円)を除けばほぼ前年同期並み。

原燃材料高と市況要因

金融収支の黒字化、持分法投資利益の増

特損31億円(固定資産除却等)、特益27億円(株式売却益等)

売上は前年同期比1.9%減となりましたが、インソライト工業の売上が昨年の第1四半期まで21億円ほど入っていますので、これを除くとほぼ前年同期並み、ということになります。

営業利益は、前年同期比27.2%減、残念ながら大幅減益となってしまいました。これは、後でもご説明しますが原油価格高騰による製造費用のアップと、中小型液晶等の低迷、といった市況要因となります。

重油をはじめとする石油関連製品の値上がりの影響は、全社ベースでは前年対比で約10億円の悪化要因として出ております。

一方、経常利益は、営業外損益における金融収支の黒字化と持分法投資利益の増加により、前年同期比2.7%増となりました。

また、特別損失として固定資産の除却など、31億円を計上した一方で、主に有価証券売却益として27億円の特別利益を計上した結果、当期純利益は、ほぼ前年同期並みの38億85百万円となりました。

●連結貸借対照表

(単位:10億円)	2004年 9月期	2005年 3月期	2005年 9月期	前年同期比	前期末比
流動資産	167.9	167.7	169.5	1.6	1.8
(うち、現預金)	(61.8)	(64.2)	(67.4)	5.6	3.2
固定資産	262.4	259.2	279.3	16.9	20.1
総資産	430.4	426.9	448.8	18.5	21.9
負債	225.5	218.9	227.6	2.1	8.7
(うち、有利子負債)	(129.2)	(121.3)	(124.9)	-4.3	3.6
少数株主持分	2.9	2.7	2.9	0.0	0.2
資本	202.0	205.3	218.4	16.4	13.1
資本金	41.1	41.1	41.1	0.0	0.0
その他	160.9	164.2	177.3	16.4	13.1
総資産	430.4	426.9	448.8	18.5	21.9
株主資本比率	46.9%	48.1%	48.7%		
デッドエクイティレシオ	0.64	0.59	0.57		
BPS(円)	455.7	463.3	492.9		
ROE	1.9%	3.7%	1.8%		
ROA	1.6%	3.6%	1.5%		

ROA=(経常利益+支払利息)/総資産

有形固定資産 +6億円  
保有株式の時価評価増 +156億円

社債償還 △96億円  
一方で長期借入増(設備投資資金等)

株主資本比率は改善、D/Eレシオ  
も低下し、財務安全性がより向上。

次に、貸借対照表ですが、

総資産は前期末比で219億円増の4,488億円となりました。

資産の部では、有形固定資産の増6億円、情報システム投資などの無形固定資産の増が37億円ありますが、増分の大方は投資有価証券の増分156億円で、これは保有有価証券の時価評価の増分です。

一方、有利子負債は、社債の償還が96億円あった一方で、設備投資資金などで借入れ増となり、有利子負債残高は1249億円となりました。

株主資本比率、デッドエクイティレシオは、保有有価証券の時価評価が上がったことありますが、前期末よりも改善しております。

● 連結キャッシュフロー計算書

(参考)

(単位:10億円)	2004年 9月期	2005年 9月期	前期比	2005年 3月期
営業CF	7.4	7.2	-0.2	16.8
投資CF	-2.8	-6.6	-3.9	-0.3
フリーキャッシュフロー	4.6	0.6	-4.0	16.5
財務CF	0.7	1.3	0.7	-7.8
期首現預金残	55.4	63.5	8.2	55.4
期末現預金残	61.1	66.1	5.0	63.5
(単位:円)				
1株あたり配当金	3.0	3.0	0.0	6.0

中間期税前利益 +56億円  
償却費 +64億円

固定資産取得 △99億円  
有価証券売却 +38億円

社債償還 △96億円  
借入純増 +123億円

キャッシュフロー計算書は、

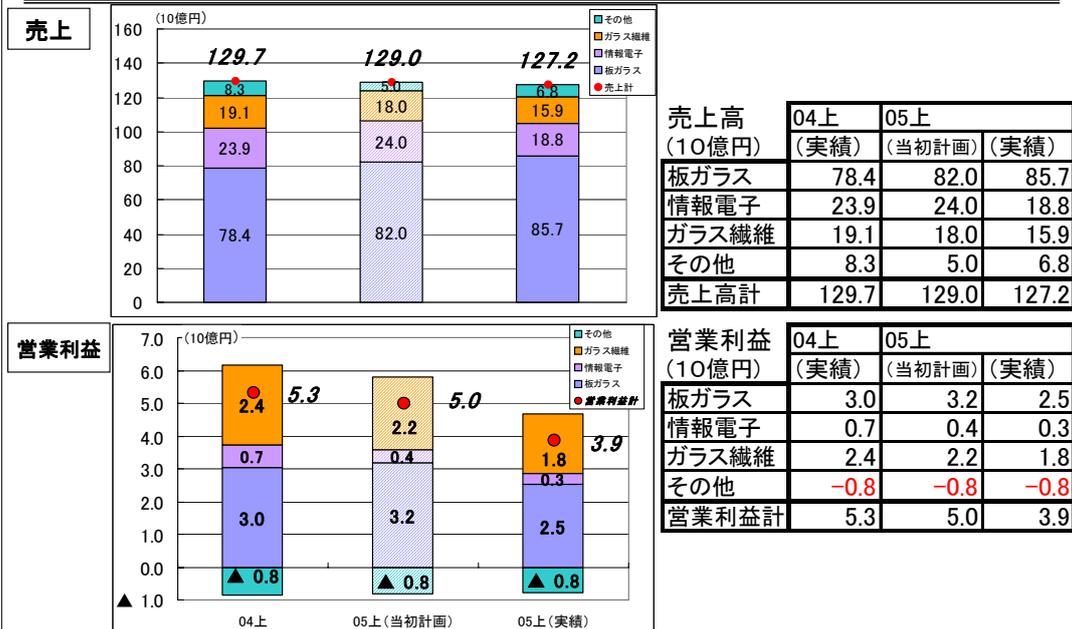
営業キャッシュフロー（CF）はほぼ前年同期並みの72億円のプラス。投資キャッシュフロー（CF）は固定資産取得によるマイナスが99億円ある一方で、有価証券の売却収入が38億円あり、トータルで66億円のマイナスとなりました。

営業CFと投資CFを足したフリーキャッシュフローは前年同期より40億円減少し、6億円のプラスとなりました。

財務キャッシュフローは、社債の償還96億円に対し、借入金の増加が123億円あり、トータルで13億円のプラスとなりました。

当中間期末の現金、および現金同等物残高は26億円増加し、661億円となりました。

● セグメント別売上高、営業利益推移



引き続き、セグメント別の全社売上と営業利益を見てまいります。  
 上が売上。下が営業利益のグラフで、単位は10億円となっております。  
 それぞれ左から04年度上期実績、05年度の当初計画、及び  
 05年度上期実績、と並んでおります。

それぞれの部門別の分析と要因については、後でご説明しますので、  
 ここでは簡単に触れるにとどめますが、

売上は、前年同期に対して、建築、自動車といった板ガラス部門が  
 増収だったものの、それ以外の部門が減収に終わり、結果として  
 全社ベースでも微減となりました。

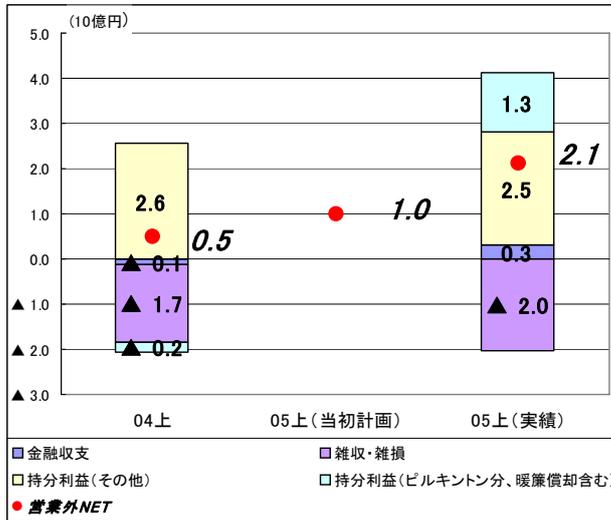
当初計画に対しても、同様の傾向です。

営業利益は、前年同期に対しては、板ガラス部門は原油高騰のあおりで  
 減益、情電、繊維は液晶や半導体といった市況悪化の影響で減益となり  
 ました。

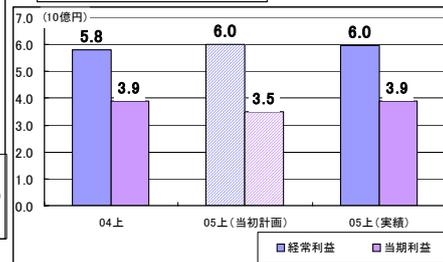
当初計画に対しても同じですが、板ガラス部門は同様に当初想定を上回  
 る原油高の影響があったということになります。

● 営業外損益、経常利益、当期利益推移

営業外損益



経常利益、当期利益



続いて営業外損益と、経常利益、当期利益の推移です。  
 経理部長より説明がありましたので、詳細は割愛しますが、  
 今期ピルキントン分の持分利益が大きく増えたのは、今期からピルキン  
 トン社が  
 国際会計基準に変更になったことの影響といえます。

## セグメント別・実績概況

次に、セグメント別の実績概況をご報告いたします。

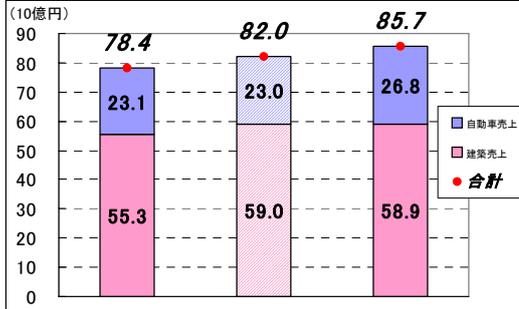
● 板ガラス分野(硝子・建材)



まずは板ガラス分野です。

●板ガラス分野(硝子・建材) —実績概況—

売上



<売上>

国内建築

- ・防犯、複層ガラスを中心に堅調。防犯ガラス(合わせ)は、下期に生産能力倍増し、秋口の建築需要期に対応。
- ・製品価格改訂は粘り強く交渉。

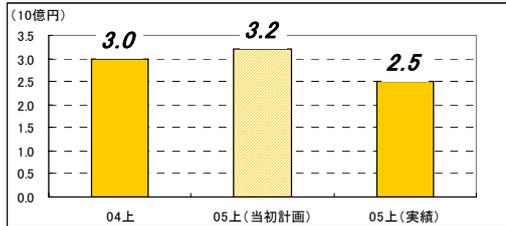
海外建築

- ・マレーシア新窯稼動が貢献。

自動車ガラス

- ・新車向け出荷増と、新規連結効果。  
(自動車補修ガラス販売: 計画外で年間増収 約40億円)
- ・国内自動車生産は下期も堅調を予測。
- ・下期、合わせガラス新設備(舞鶴)の稼動、高付加価値品(IRカットガラス)増による業績向上に期待。

営業利益



<営業利益>

- ・ほぼ、原燃材料(重油等)高騰の影響で前年同期比、計画比ともマイナス。
- ・今後の重油価格動向に注視。

今年度上期実績の前年同期との対比としては、売上については784億円から857億円へと73億円増加しました。

このうち建築用ガラス分野は36億円増加していますが、内訳としては、国内建築は、新築着工増と、防犯ガラス、複層ガラスを中心とした機能ガラスの増加により前年同期比で20億円弱のプラスとなりました。海外建築は、マレーシアで4月に稼動したフロート窯の貢献などにより、これも20億円近いプラスとなりました。

自動車用は、今年度から新規に連結に加えた自動車用の補修ガラスの販売会社の影響により、前年同期比で20億円近く増収となったことに加えて、新車向けのガラス販売でも、堅調な国内自動車生産に支えられて増収となっています。

当初計画対比では、建築用は概ね想定どおりですが、自動車用は、前年同期比での要因と同じく、新車向けのガラスの好調と新規連結の要因がそのまま効いています。

一方、板ガラス部門全体の営業利益は、原油価格の高騰による重油や副資材の単価アップが響きました。この影響額は、全社で10億円弱と見えています。よって当初計画対比で営業利益が7億円マイナスとなっているのは、ほぼこの要因と見えています。

前年同期対比では、ガラス製品の価格改定や、機能ガラスの拡販による増益、及びコストダウン活動による原価低減を行っていますが、原油価格の高騰分を埋めることができず、5億円の減益となりました。

下期の見通しは想定が難しいところですが、原油価格の今後の動向はやはりリスク要因になるかと思えます。しかしながらこの一方で、下期に向けた施策も始まっており、建築分野では、この下期から防犯用合わせガラスの生産能力が倍増しますので、秋の需要期に向けて拡販に努力していきたいと思えます。

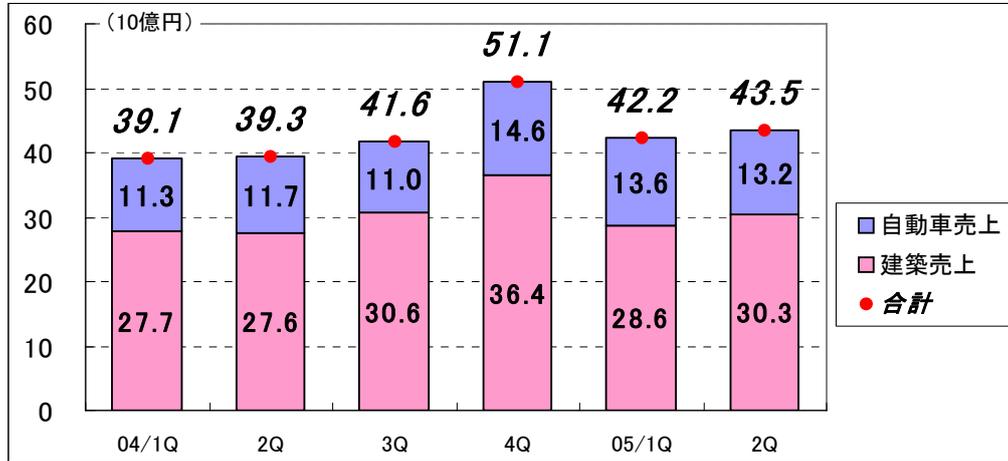
ガラス製品の今年分の価格改定については、難しいものの、引き続き粘り強く交渉していくつもりです。

自動車用は、国内生産台数は下期も総じて堅調に推移するものと見えますが、これに加え、この下期に舞鶴で新型の合わせガラス生産設備が本格稼動しますので、これによる生産性の向上効果に期待しています。

また、IRカットガラスの出荷もこれから本格化してきますので、さらに収益に貢献するものと見ております。

●板ガラス分野(硝子・建材) —四半期売上実績推移—

売上



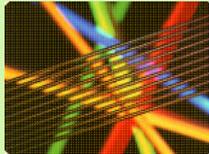
同様に、四半期別の売上の推移です。  
 昨年の推移をご覧の通り、需要期は下期になります。  
 これに加えて、高付加価値のガラスの拡販に引き続き努めてまいります。

●情報電子分野

情報通信デバイス

情報デバイス

SLA、SLED、化学強化ガラス他  
OA機器用部品



通信デバイス

セルフオックマイクロレンズ、  
各種通信用デバイスなど



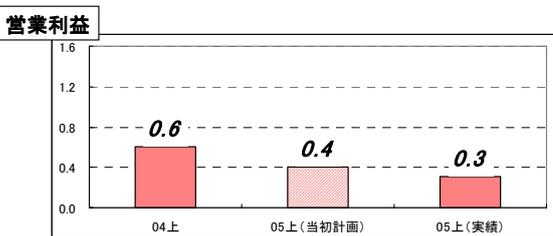
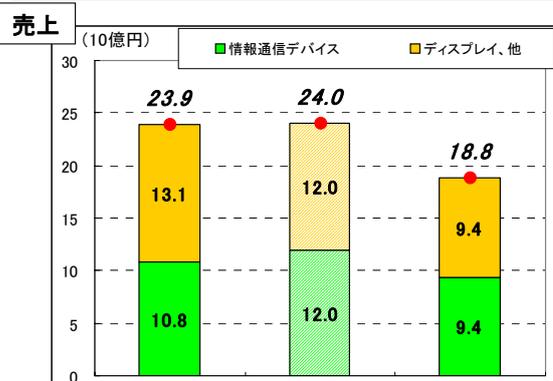
ディスプレイ

液晶用基板、PDP基板など



次に情報電子分野です。

●情報電子分野 —実績概況—



＜売上＞

**情報デバイス**

インクジェット複合機向けは順調だが、光源部品(セルガイド)は競合継続で減収。3Qクリスマス商戦向け拡販対策。

**通信デバイス**

モジュールの引合いは引き続き順調。フィリピンでの生産能力向上を対策中。

**ディスプレイ**

中小型液晶分野の市況回復遅れ、減収。下期本格回復に期待。PDPは認定に遅れ。

＜営業利益＞

数量減による利益減あるが、通信の赤字縮小もあり。下期は、液晶分野の回復を注視。

＜TFT液晶基板ガラス＞

(持分法(営業外損益) NHテクノグラス)

2Q 生産不調発生。全力で立て直し。台湾4号窯の建設決定(2006年3月稼動)。

情報電子の上期の実績です。売上については、

情報デバイス事業は、インクジェット・マルチファンクション・プリンタ向けのレンズは依然順調に推移していますが、セルガイドという光源部品は、競合の進出により、想定以上に苦戦して、前年同期を下回りました。下期にかけては、第3四半期のクリスマス商戦向けの最終需要に拡販すべく対策をしております。

通信デバイス事業は、通信レンズの出荷も徐々に増えてきていますし、モジュールの引合いも引き続き順調に増えております。

今後の増産に向けて、フィリピンでの生産能力の向上を対策している最中です。

ディスプレイは、中小型液晶分野の市況の回復が遅れており、基板ガラスのUFFが大幅に減収となっていますが下期の需要の本格回復に期待しております。

PDPは、残念ながらまだ認定が取れていませんが、粘り強く対処していきます。

営業利益については、ディスプレイの数量減による利益減がありますが、一方で通信デバイスの赤字の縮小もあり、当初計画に近い線を維持しています。

下期は、液晶分野の回復にかかってくるところであり、ここで挽回していきたいと考えています。

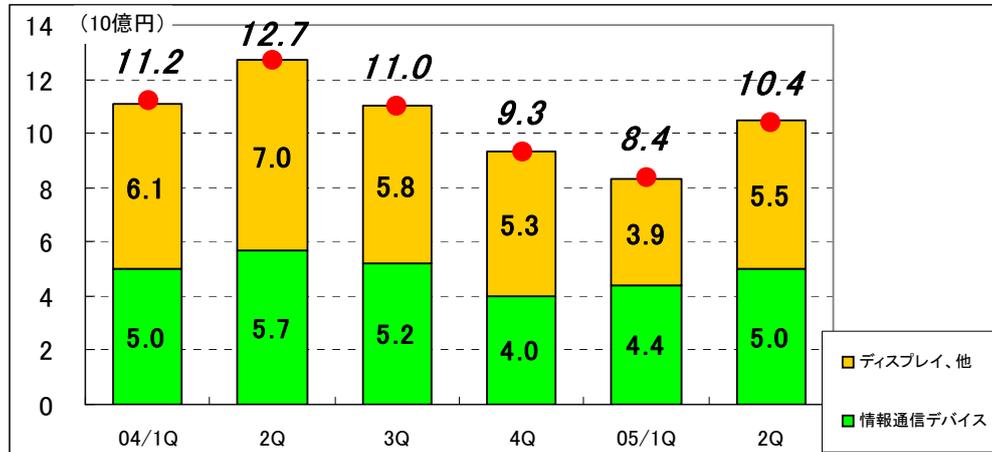
それから、この売上、営業利益には入りませんが、持分法適用会社のNHテクノグラスについては、この第2四半期は、生産不調が発生しましたが、立て直しに全力を投入して、拡大する需要に対応できるよう早急に対策を打っていきたくと考えています。

また、今後の設備投資に関しては、既にお知らせしておりますシンガポールの3号窯は来年年明けに順調に稼動する見通しですが、これに加え、このほど来年3月稼動予定で、台湾の4号窯の建設を決定しました。今後も市場拡大の状況を見ながら生産能力を拡大していきたいと考えています。

● 情報電子分野

— 四半期売上実績推移 —

売上



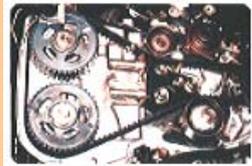
四半期別の売上推移です。

売上は、前年比ではマイナスですが、今年の1Qを底に、2Qにかけて伸びておりますので、このペースで下期も伸ばしていきたいと考えています。

● ガラス繊維分野

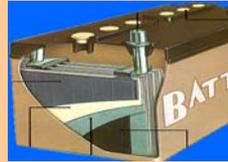
ゴムコード

自動車用タイミングベルト



バッテリーセパレータ

自動車、無停電装置などの鉛蓄電池



フレーク他

耐食、プラスチック強化材  
光輝性顔料素材



フィルター

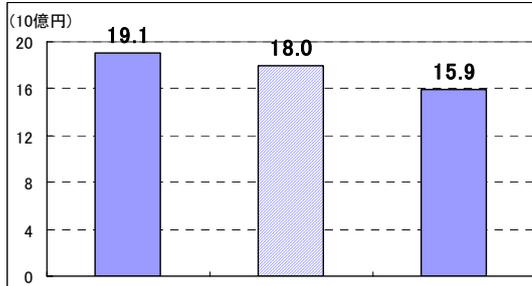
クリーンルーム用など



最後にガラス繊維です。

●ガラス繊維分野 -実績概況-

売上



<ゴムコード>

欧州向け高機能品を中心に引き続き好調を継続。  
中国蘇州拠点 06年夏に稼働。

<フレーク>

耐蝕分野などが堅調。  
メタシャイン新用途開拓活動中。

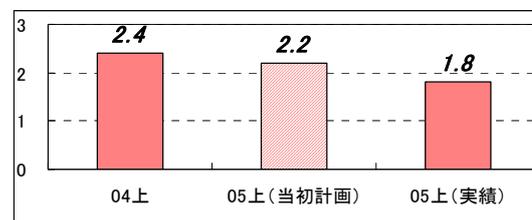
<セパレータ>

自動車用バッテリーの国際競争の渦中。  
数量、単価の下落。  
中国天津拠点活用でコスト削減。

<エアフィルタ>

半導体、液晶の新設工場向け需要の低迷。  
投資案件は下期にずれ込み。

営業利益



ガラス繊維の上期の実績です。

前年同期との対比では、ゴムコードが好調だった半面、半導体工場向けエアフィルタの需要が低迷していることから、減収減益となりました。

個別に見ますと、ゴムコードは欧州向け高機能品を中心に引き続き好調を継続しています。今後、中国蘇州の生産拠点が来年夏に稼働しますので、引き続き堅調にいくものと期待しています。

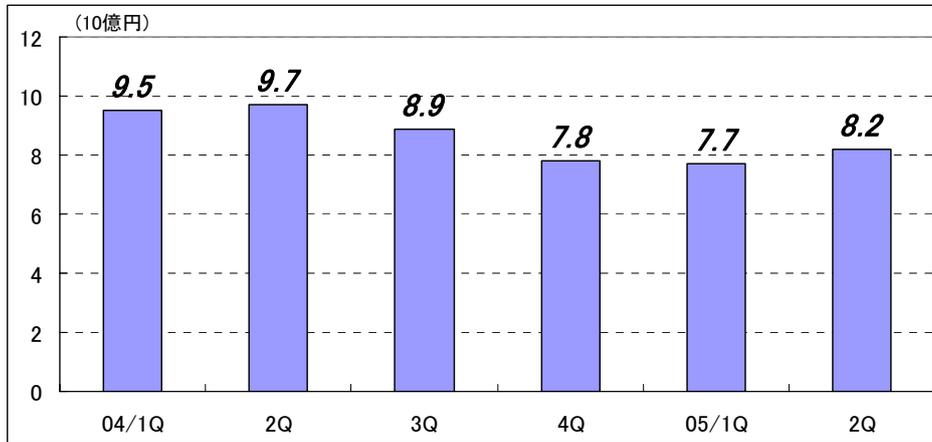
フレークは、タンクの内側などに使う耐蝕塗装分野などが堅調です。メタシャインは現状は多少足踏みしていますが、新用途開拓に向けて、積極的に活動しているところです。

セパレータは、現在、自動車用バッテリーの国際競争の渦中にあり、数量、単価とも低迷しています。中国天津の生産拠点を早期に戦力化してコスト削減を図っていきたいと考えています。

エアフィルタですが、半導体、液晶といった新設工場向けの需要が低迷しており、この部分がガラス繊維全体の業績に最も影響を与えているところです。半導体や液晶の工場の投資案件が当初の想定よりも下期にずれ込んでいることが原因で、下期はこのずれ込んだ案件をしっかりとフォローしていくことで、通期で前年並みのレベルまで戻していきたいと考えています。

● ガラス繊維分野 — 四半期売上実績推移 —

売上



次に四半期別の売上の推移です。  
 こちらも1Qを底として2Qにかけて、戻しつつありますので、  
 3Q以降に期待が持てるものと思っています。

## 以下、参考資料

通期業績見通しにつきましては、決算短信にも記載しておりますが、今期下期の見通しが不透明な状況にありますので、当初計画からの見直しを留保させていただき、現時点で当初計画から変更しておりません。

今後の市況の動向を見極めながら、追加改善策を検討していく考えです。これらの状況を踏まえ、今後、東証開示基準に該当するような見通しの変化が見込まれる場合は、改めて公表する予定にしております。

● <ご参考>通期業績見通しについての考え方

---

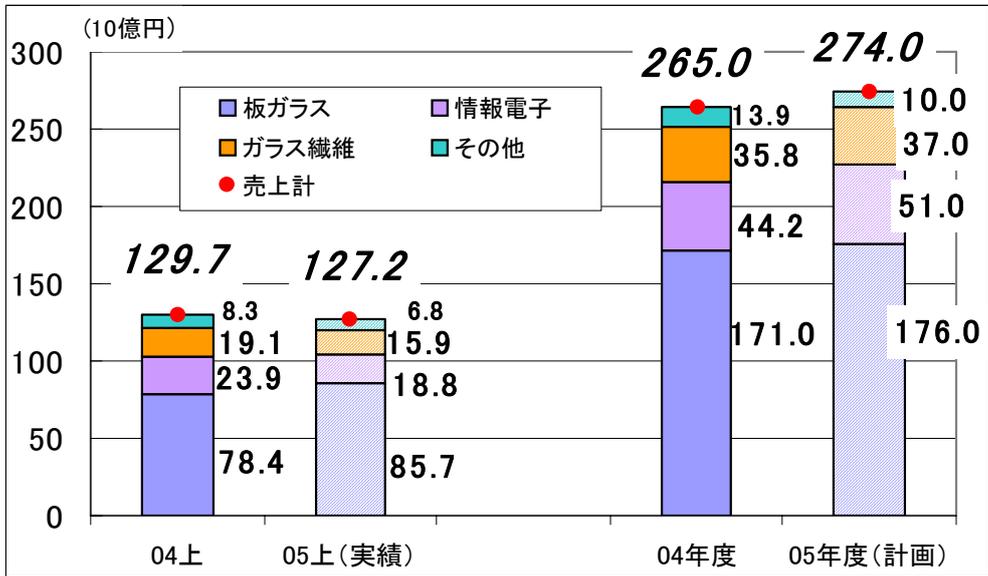
1. 今期下期の見通しが不透明な状況にあり、当初計画からの見直しを留保。
2. あわせて今後の市況動向の見極めと、追加改善策を検討、実施。
3. これらの状況を踏まえ、今後、東証開示基準に該当する見通しの変化が見込まれる場合は、改めて公表予定。

● <ご参考> 前提指標

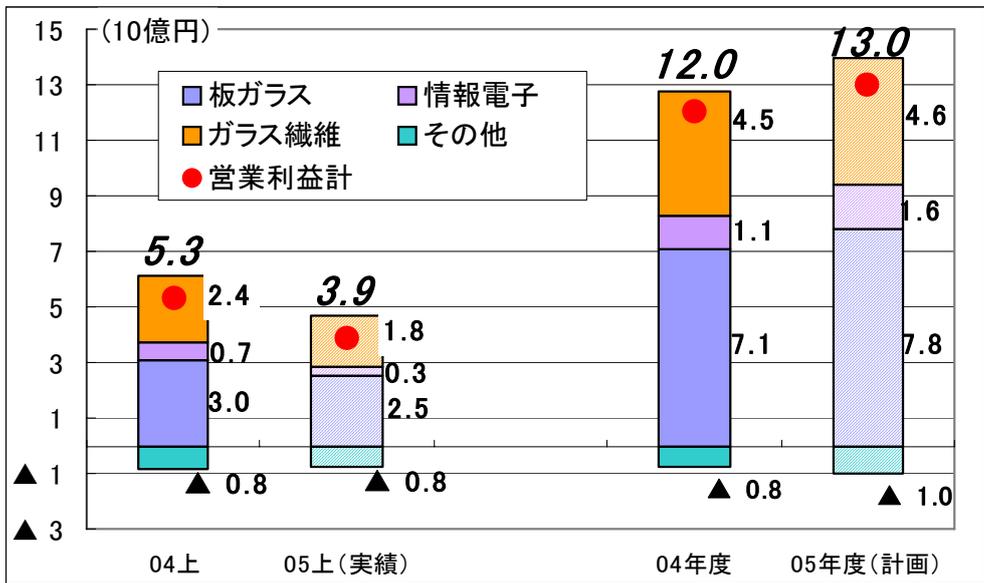
		2004年度 上期実績	2004年度 通期実績	2005年度 上期実績	2005年度 通期見通 <当初計画>
為替	(円/US\$)	110	110	111	107
原油(ドバイCIF)	(US\$/B)	34	38	50	37
減価償却費	(10億円)	6.2	12.6	6.0	13.0
設備投資	(10億円)	6.1	13.7	9.9	16.0
研究開発費	(10億円)	4.0	7.9	3.6	8.0
フリーキャッシュフロー	(10億円)	4.6	16.5	0.6	▲ 2.0
有利子負債	(10億円)	129.2	121.3	124.9	120.0
人員	(人)	13,690	13,385	13,653	-

原油価格反応度 1ドル/1Bの変動で約1億円の減益要因  
 為替反応度 1円の円安で約0.5億円の増益要因

● <ご参考> 全社上期実績、通期計画(売上高)

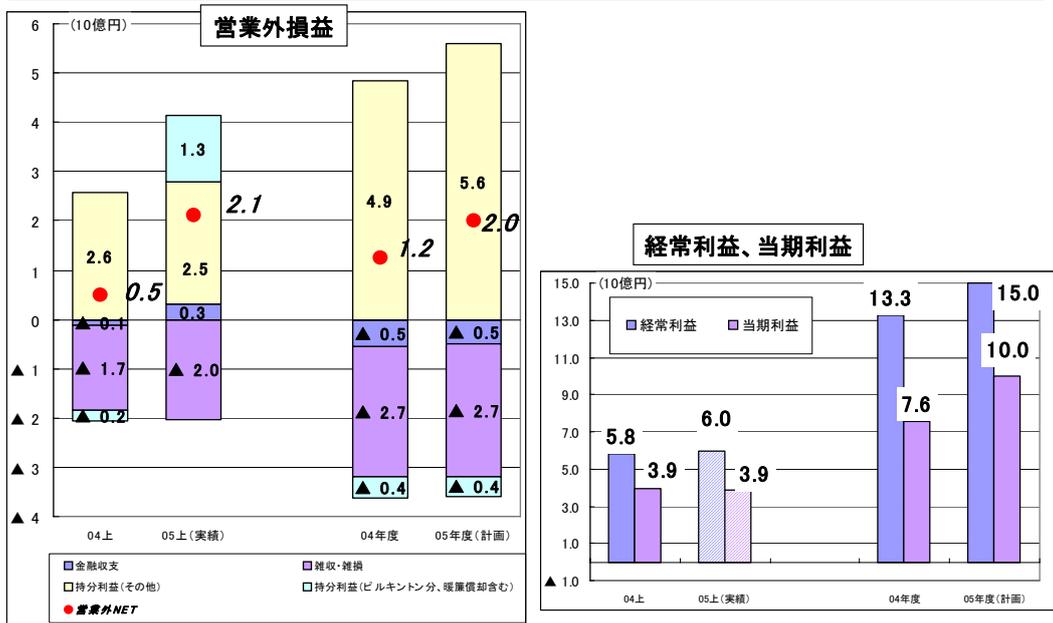


● <ご参考> 全社上期実績、通期計画(営業利益)



● <ご参考> 全社上期実績、通期計画  
 (営業外損益、経常利益、当期利益)

◎ 日本板硝子



●ご注意

---

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場（日本、欧米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。